



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

- 国際会長主題 「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
- アジア会長主題 「変化をもたらそう」
- 東日本区理事主題 「未来に向けて今すぐ行動しよう」
- あずさ部部長主題 「変わるに挑戦！」
- 東京西クラブ会長主題 「楽しく、元気で、そして仲間を迎えよう！」

2022年8月号

NO 551

主は国々の間を裁き、多くの民のために判決を下される。彼らはその剣を鋤に、その槍を鋤に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦いを学ぶことはない。
旧約聖書イザヤ書2章4節

リーダーシップトレーニングと役員就任式式辞 吉田 明弘

8月の月間強調テーマは、「リーダーシップトレーニング」と定められています。なぜ、8月なのか、なぜ、「リーダーシップ」だけでなく、「トレーニング」が付くのかも知りません。あるいは、教わっていたかも知れませんが、今は記憶にありません。

改めて考えてみると、7月に役員が交代した翌月の8月に、リーダーシップについて考えることに意味があるのかも知れません。

では、ワイズメンズクラブのリーダーシップの基本となるものは、なにか。情けないことに、これまで何度も区主催の役員研修会に出席していて知らない筈はないのに、これも覚えていないのです。今さら、人には聞けません。

いろいろ考えて、クラブ役員の就任式で読まれる『式辞』ではないかと思ひ当たりました。

あの、①「理想主義者であること」、②「関心をもつこと」、③「率

先すること」、④「労をいとわないうこと」です。これが、ワイズメンが目指すべきリーダー像ではないでしょうか。

この役員就任式式辞は約100年前、ワイズメンズクラブ国際協会の創立者であるポール・ウィリアム・アレキサンダーによって起草され、以来、組織の各レベルの役員就任式で変ることなく用いられてきました。

毎年、世界で6,000人ものクラブ役員が誕生します。各レベルの役員を加えると数は更に増えるでしょう。100年もの時間と空間、距離を超えて同じ言葉でつながっているのです。

これをワイズメンズのリーダーシップの理想としても良いのではと思います。

東京西クラブでは、9月例会に、理事就任式、交代式について、学ぶ時を持ちます。(関連記事がp3にあります。)

WHOウォーク新プログラム、中止に



夏の夜のアブラゼミの奮闘跡

WHOウォーキングでは、8月末に新しい企画を行なう計画でした。夏でも顔を合わせたいという参加者の要望のゆえです。しかし、この先行きが見えないコロナの感染と猛暑、中止を決めました。

計画は、東京YMCA山手センター付近でごく軽いウォーキング(例えば、標高64mの箱根山)をして緑陰で弁当を食べ、センターでウォーキングの動画を視聴、季節の歌を唄うとか。

8月27日(第4土曜日)を予定しましたが、やはり状況は厳しく、他日を期すことにしました。

クラブ役員

- 会長 高嶋美知子
- 副会長 吉田 明弘
- 書記 本川 悦子
- 会計 篠原 文恵
- 担当主事 横山 弥利

7月の記録				ニコニコ	3,500円
在籍者数	12人	メネット	0人	クラブファンド	1,247円
(内功労会員)	1人	コメント	-人	ファンド残高	114,715円
出席者数	7人	ビジター	0人	ホテル校ファンド	6,400円
メーキャップ	4人	ゲスト	0人	ホテル校残高	16,900円
出席率	100%	出席者合計	7人	WHO参加者	-人
内Zoom参加	0人				

8月納涼例会のご案内

強調テーマ：リーダーシップトレーニング

8月は、納涼例会です。今年は、私たちのフランチャイズ、荻窪のフランス料理店で行ないます。7月に、3人で下見をしました。味に自信のある人、人を見ることでは定評のある人、何にでも口を出す人、全員一致で決まりました。皆さんにもご満足いただけたと思います。

残念なことに、保健所の指導で、人数が制限され、身内だけで行なうこととなります。

日時：8月18日(木)18:45~21:00

会場：ビストロ天下井(あまがい)
荻窪駅 南口仲通り商店街
03-5930-4629

会費：6,000円(メンバーは通常例会費から補助があります)

担当：B班(石井、鳥越、吉田)

受付 吉田 明弘
司会 鳥越 成代

開会点鐘 高嶋美知子会長
ワイズソング「いざたて」 一同
聖句朗読・祈祷 村野 絢子
ご紹介 会長

会食《ワンドリンク以外は各自ご自由に》
懇談

ハッピー・バースデー
YMCA 報告 横山 弥利
ニコニコ 一同
閉会点鐘 会長

HAPPY BIRTHDAY

4日 篠原 文恵 13日 神谷 幸男
15日 本川 章 30日 山田 紀子

—7月事務会報告—

日時：7月28日(木)

17:00~19:00

会場：山手センター 3階

出席者：石井、河原崎、篠原、
高嶋、本川、村野、吉田
<報告事項>

- ① 6月通常会計報告を承認した。
- ② 評議会会計報告を承認した。桃の会計の残金を送金した。
- ③ 前年度会計決算報告について、ホテ校奨学金不足額を本会計から立替え、返済を行なうことについて、問題が指摘され、本年度から実行面で正していくことにした。
- ④ 本年度会計予算案について、会場費の削減、例会食の変更などによって年会費を据え置くことで承認された。
- ⑤ 今年度のロースターはクラブ役員分を申し込んだ。

<協議事項：例会関係>

- ① 今年度の事務会は9月から山手センターで行うことにした。
- ② 8月納涼例会の会場は荻窪・ビストロ「天下井」に決めた。
- ③ 9月例会

担当C班(神谷、河原崎、
本川、横山)

9月の卓話は YouTube で放映された役員交代式のダイジェスト版を鑑賞する。

- ② 10月例会には、後藤明久あずさ部長の公式訪問が予定されている。

<その他>

甲府やまなみワイズメンズクラブのチャーターナイトに事務会当日現在7人が参加予定。
(書記・本川悦子)

甲府やまなみクラブ
チャーターナイト

6月11日(土)に設立総会を終えた甲府やまなみクラブの国際協会加盟認証状伝達式が、9月3日(土)、甲府市丸の内、ホテル談露館で開催されます。

同クラブのスポンサークラブは甲府クラブです。あずさ部にとっては、長野クラブに次ぐ12年ぶりの新クラブです。お祝いに参加しましょう。

受付開始 14:00

伝達式 14:30~15:45

祝会 16:00~17:30
会費 8,000円

あずさ部大会
富士五湖20周年記念例会

あずさ部大会と、ホストする富士五湖クラブの創立20周年記念例会が、10月15日(土)、山梨県忍野村「いちい亭」で同時開催されます。詳細は次報を待ちます。

富士五湖クラブの第18回富士山例会が3年ぶりで、9月24日(土)~25日(日)、五合目佐藤小屋で行なわれます。日本一高い場所の例会には、全国からの参加があります。

例会が府中のタウン誌に

本年4月の当クラブの例会が、府中市のタウン誌『府中ファミリープラザ』で紹介されていました。

これは、同誌の編集長、大沢稔さん、美保子さん夫妻を卓話者としてお招きし、40年にわたる、地域社会(住民)とタウン誌の関係、記事の取り上げ方についてお話を聞いたことからでした。

同誌4月7日発行号に例会の写真とともに掲載されました。



7月例会。最小人数なれどメイキャップで出席率は100%

卓話は中止、「ふりかえり」 — 7月例会報告 —

新年度キックオフ例会が7月21日(木)18:45-21:00、高嶋美知子新会長のもと、ウェルファーム杉並で行なわれました。

卓話は東京八王子クラブ花輪豊子メネットに「地域における異文化理解」についてお話しいただく予定でしたが、コロナ感染拡大のため卓話は早めに中止を決めて、例会は前年度会計決算報告、新年度会計予算案を含む、内部の協議に切り替えていました。しかし実際には前週の7月21日(土)にホストを務めた、あずさ部評議会の総括と懇談に終始しました。

評議会のホストについては、最初から「反省」はしないで、「ふりかえり」をすることにしました。

ウクライナから杉並区に避難してきたプロのチェロリストの小さなコンサートを開こうと交渉したことは特筆すべきことでした。結果的には時間切れになりましたが、これまで、クラブは、YMCAの提案や企画に協力することはありましたが、自ら外部に働きかけたことは初めてでした。この経験は今後生きるに評価しました。

いろいろな理由で会が、ドタバタしたことは事実でした。一番、困ったのはマイクの不調でした。聞えなくなったり、間欠的に爆発音が出たり。「花火大会みたいだね」との声に救われました。

実際は、音声は聞えない方も多

かったのに。

教室スタイルの机、椅子を並べ直すのにも手間取り、皆さんが率先して手伝って下さいました。そうか、最初から「ご協力をお願いします。このように並べてください」と率直に分りやすくお願いすればよかったのだと。

リアルでやれたということが、万難を隠してくれました。あずさ部の温かさに一番触れたのは、ホストクラブだったというのが、「ふりかえり」でした。

例会のお弁当は、いつもの「美濃吉」ではなかったですが、美味しかったです。



ワイズソング斉唱

ハッピーバースデーは河原崎和美さんでした。最後にプレゼントのお花を抱えて全員で写真を撮りました。参加者7人は、クラブの歴史で最小出席者だったかも知れません。アットホームな雰囲気の中、閉会しました。

参加者:<メンバー>石井、神谷、河原崎、篠原、高嶋、本川、吉田、<メイキャップ>大野(6月事務会)、鳥越(同)、村野(7月事務会)、横山(YMCA業務)

(書記 本川悦子)

■ホテル学校は夏季休暇期間となり、1年生は希望者63人が参加するリゾートホテル実習が始まりました。北海道から沖縄まで22か所のホテルに分かれ約6週間の実践経験となります。1年生は昨年実施できなかった野尻湖キャンプに7月16~19日、19~22日と2班に分かれて参加。日中はカヌーやカヤック等の水上アクティビティを体験し、夜はキャンプファイヤーやレクリエーションを楽しみました。

■6月24日「ウクライナ緊急支援チャリティーコンサート」を日本基督教団霊南坂教会で開催、約120人が来場しました。飯靖子氏(オルガン)、方波見愛氏(ピアノ)、飯頭氏(ヴィオラ)による演奏と、西山利佳氏(児童文学研究者)によるウクライナ民話絵本「てぶくろ」の朗読が好評でした。また、ウクライナYMCAから届いた映像を交えながらYMCAのウクライナ支援活動の報告があり、終演後に募金協力217,325円が寄せられました。

■10月28日にもコンサート第2弾を予定しています。

■7月3~9日、「第20回世界YMCA大会」が「IGNITE(火をつける)」をテーマに、デンマークのオーフス及びオンラインで開催。現地に約1,000人が集い、オンラインでも約1,000人が参加し過去最大規模の大会となりました(日本からは12人が現地参加、44人がオンライン参加)。コロナ後の世界SDGsなどグローバルな課題に対してYMCAが行動を起こしていくための「VISION 2030」が採択された他、Soheila Hayek世界YMCA新会長(レバノンYMCA)と新役員11人が選任され、ユースによるセッションやグループディスカッション等が行われました。

担当主事 横山弥利



やはりリアルはいいもんだ。評議会参加者全員

うぶごえが聞こえる評議会

あずさ部第1回評議会 7月16日(土) 13:00から東京YMCA山手センターで54人をお迎えして当クラブのホストで開かれました。集会室が飲食が禁止とあって急遽教室に変更しました。

後藤明久あずさ部長(富士五湖)の開会点鐘に始まり、評議会成立宣言のあと、直前部長長谷川あや子さん(東京八王子)の挨拶など、引継ぎ式が行われました。



所信表明をする後藤明久・あずさ部長

決算報告、監査報告、次々期部長クラブは甲府クラブから選出と決まりました。マイクの不備などありましたが、何とか定刻に写真撮影まで進行し、菰渕光彦さん(東京サンライズ)の撮影では皆さんの和やかな笑いで包まれ、顔が見え、言葉を交わせる評議会の楽しさを味わいました。

その後、皆様のご協力でテーブルを懇親会用に移動、感染を避けて弁当もお茶菓子も個別包装でテーブルに並べました。

森本俊子次期部長の(長野)の発声でソフトドリンクで乾杯、佐藤重良東日本区理事のスピーチの後に、「うぶごえが聞こえる」と題した評議会の名称と、9月に国際協会に加盟承認される「甲府やまなみクラブ(仮称)」の誕生を喜んでミルク代を贈る経緯を説明しました。甲府21クラブが苦労して入手、運んでいただいた桃を皆さんに買っていただき、差額を甲府クラブに託すことが出来ました。また、協力をお願いした「ウクライナ支援募金」にも16,622円をいただきました。

(篠原文恵)

桃とミルク代

「うぶごえが聞こえる評議会」と聴いて、「乳児院を始めたのか、山手センターは」と思われた方もあったのではないのでしょうか。あずさ部の評議会には創部以来、それぞれ愛称が付いています。1998年、それまでの東部、北東部、南東部、を解散し、再編成してあずさ部としてまとまった時、それぞれの“家風”があり、すぐにはしっくりしませんでした。初代の部長大塚篤郎さん(甲府)が、それまで各クラブ役員、部役員中心だった評議会をだれでも集まれるようにしよう、ホストクラブに評議会の愛称をつけてもらい楽しい評議会にしようと呼びかけました。そして行なった最初の評議

会が「桃の木の下評議会」でした。

今回、愛称が決まったのは、7月5日でした。開催地から言えば「早稲田の杜」、太田道灌ゆかりの「山吹の里」などでしょうが、杉並で例会を行なっているクラブにとっては、何か違いました。今、どういう時かを考えた時、設立総会を終えて、懸命にチャーターナイトの準備をしている、甲府やまなみクラブに思いを寄せよう、ということに意見がまとまりました。具体的に何をするか、援助は、新クラブに対してもスポンサーの甲府クラブにも失礼になる。評議会として、ささやかな「ミルク代」を贈ろう。そのために会場で桃を買って頂こうということになったのです。



甲州名産の桃は即日完売

他クラブとの交わりの楽しさや、ぬくもりは言葉ではなかなか伝えられません。新クラブの方々に、私たち仲間存在を感じてもらえたら、うれしい限りです。

(吉田明弘)

下田クラブ

* * *



—土屋恒夫さんのお生まれは。

「伊豆半島中南部の旧稲梓村です。家業は農業。父は中学校校長。叔父は翻訳家・児童文学者で、後に長年静岡高校で英語教師をしていました」

—幼少期は、どんな子でしたか。

「毎日、暗くなるまで遊びました。でも家の手伝いはよくやりました。中学・高校では生活が一変、勉強の虫となりました」

—その後は。

「1966年3月に青山学院大学を卒業。同年4月静岡県公立学校教員に任用され、英語を教え、以後38年間6校で勤務しました。定年後も非常勤講師としてほぼ毎年中学・高校の教壇に立ちました。2020年5月、伊豆総合高校土肥分校を最後に約50年の教師生活にピリオドを打ちました」

—教育実習で行った高校の生徒に現在伊東クラブの久保田康正さんがいたそうですね。

「ええ。初赴任校の伊東商業高校の3年生に在籍していたのが伊東クラブの久保田康正君と杉本隆夫君です。ワイズメンズクラブで再会できたのは奇遇でした。教え子たちと一諸にワイズの活動が出来る幸せを思います」

—長い教師生活で一番大切にされたことは。

「“一人一人の生徒を大切にする”、“分かりやすい授業をする”の2点です」

—伊豆半島の家庭で広く読まれている伊豆新聞（熱海新聞）に6年半、コラム『イングリッシュ通

信』を毎月連載されました。

「現役時代生徒対象に書いたのが始まりです。書き始めは緊張したものの筆が進むにつれて月1回の執筆が生き甲斐になりました。全身全霊を傾けて完成させた全87話は私の自信作でもあります」—土屋さんって英語教育のプロフェッショナル。ご自身が「英語大好き」という想いが伝わってくるという、購読者であるワイズメンズ関係者の声もあります。

「英語は私の分身、永遠の恋人といったところでしょうか。しかし他に融通が利かない“英語バカ”の一面がのぞく・・・」

—幕末、黒船でペリーが、やってきて開国を迫ったのが浦賀（神奈川県）、翌年、下田に来港し、日本は箱館と下田を開港したのですね。そのため下田には海外に向かって開けた風土があり、土屋さんの英語に繋がったのではと。

「そうかもしれません。開国の港下田を象徴する行事に80年の歴史を持つ『黒船祭』があります。ここでは、米軍軍艦内を凜々しい制服に身を包んだ乗組員が流暢な英語で案内してくれるのです。そんな彼らに憧れないわけがありません。話が変わりますが、かつてはクラブもこの祭りで筏乗り競漕大会を実行していました」—メネット成子さんは大学がご一緒だったと伺いましたが。

「妻は生粋の下田っ子。20代から箏曲の師匠をしています。彼女の発案で2014年に第1回「子供箏曲体験教室」がスタートしました。その後も継続し、現在では、『青少年座禅教室』とともにクラブCS事業として地域に定着しています。妻は下田高校箏曲部の顧問もしているのです、当日は高校生が多く協力してくれてとても助かっています」

—ワイズメンズクラブにはだれから誘われましたか。

「2007年に三島クラブの大学先輩大村俊之さんに声を掛けられ何も分からないまま入会しま

した。最初は戸惑う場面が多々ありましたが、今ではすっかり慣れ、自分の理想にかなったクラブであることに満足しています。ワイズメンズクラブはYMCAのサポート団体です。ミッション系大学に学び、英語のバイブルクラスで聖書を読んでいた私にはピッタリです。母校のスクールモットー『愛と奉仕の精神で謙虚に真理を追究する』は、ワイズの方針と合致します」

—個人的には熱海YMCAの「中学生英語スピーチ大会」の審査員を長く続けておられますね。

「元英語教師の私にとってこれほどやり甲斐のあることはありません。この大会は35回の実績があり、私は審査委員2年を経て、現在審査委員長を10年継続中です。出場者の堂々たる態度と英語力の進歩には年々目を見張るものがあり、judge冥利に尽きます。こちらが刺激を受け、私自身も、毎朝ラジオ英会話を傾聴し英語の音読発声に務めています」—ワイズメンズクラブに対するお気持ちは。

「ワイズは、お金や物ではなく頭と体と心を用いて奉仕をする純粋なボランティア団体です。パートナー関係であるYMCAを別とすれば、基盤となる社会組織がありません。その代わりに自由・信頼・チームワーク・コミュニケーションがあります。グローバルな組織であり、『ワイズの信条』『国際的視野を持ってYMCAに尽くそう』は的を得ています。教員オンリーの人生を歩んできた私にはワイズ活動の全てが新鮮です。ワイズメンズクラブに入会したことで世界観が変わり心の自由度も増したと思っています」—座右の銘というか、勝負どころで浮かぶ言葉がありますか。

「①常に喜び、絶えず祈り、全てのことに感謝せよ（聖書）、②千里の道も一歩より、③実るほど頭を垂れる稲穂かな、です」—有難うございました。（吉田明弘）

思い出を辿って⑧ おきなわを想う

村野絢子

50年前沖縄の人々は「基地のない平和な島」を願った。復帰後50年の今、知事は「平和の島 達成されず、基地が復興を阻害している」と語る。米軍施設は日本中の7割が沖縄に集中している。沖縄市の55歳の男性は琉球新報に投稿した中で「日本＝ヤマトは沖縄をトカゲのしっぽみたいに切り捨てたままだ」「日本＝ヤマトは沖縄の祖国なんかじゃない!」と憤っている。この文を読んだ神奈川県60代男性から「力強く素晴らしい内容。われわれ本土の人間はこの投稿者の気持ちを大事に考え、沖縄に向き合うべきだと改めて思った」との反響があっ

た。沖縄市の男性は、「復帰した年に安謝幼稚園の園児だった。隣接する米軍住宅から中学生位の米国人の少年2人が金網を超えて出てきて、1人がライフルを僕ら園児に向けて構え、同じ校庭で遊んでいた安謝小学校の児童らとくもの子を散らすように四方八方パニック状態で逃げた。200~300人で逃げた」と当時を振り返る。(東京新聞より)今も状況は変わっていない。沖縄に住む方々が、同じ日本人として国からも大事にされていると感じられるようになるのは何時のことであろうか。

私は日本の真珠湾攻撃の10日後、1941年12月18日、父の勤務していた中国南京市で生まれた。引揚者の一人であるが戦争の怖さは知らない。今もウクライナとロシアが戦争のただなかにあ

る。ウクライナの民芸品のお店がカナダのトロントにありのぞくと、一つ一つの丁寧な作りデザインからその文化レベルの高さを感じた。ロシアの人がノルウェーの国際大会に参加していたのを覚えている。どちらも歴史のある国、不安と恐怖の中で暮らす人々が安心して通りを歩き、子供たちが笑顔で遊び学べる日が1日も早く来るように祈るばかりである。世界中から戦争がなくならない限り本当の平和は来ない。

ワイズメンズクラブのロースターの湘南・沖縄部に沖縄のクラブ名はない。寂しく思う。私たちはどう沖縄と向き合えばよいのだろう。



コロナの合間の 旅の思い出

篠原文恵

5月、大磯に偶然集まった日本画家たちのアトリエを巡る会に参加した。小倉遊亀、加山又造、山本丘人、堀文子たちが好んだという山と海に囲まれた傾斜地は新緑が雨に映えていた。女性として2人目の文化勲章を受けた小倉遊亀は、最初は女性ゆえ借家名義人になれず実家の助けを得たというエピソードなどを聞きながら最後の堀文子邸に到着。100歳近くまで作画意欲は旺盛だったそうで、ミジンコの写生で活躍した顕微鏡や、渡り廊下の木目まで画材にしたという実物を見学できた。

6月は長崎のハウステンボスに遠出。経営不振という噂を感じないほど良く手入れされた園内に3日間滞在した。宿泊先のH・ヨーロッパでは生演奏を聴きながら食事を楽しむ優雅な日々だったが、意外に面白かったのが、特殊ゴーグルで体験するVR(バーチャル・リアリティ)でジェットコ



ースターやバンジージャンプ。NYの摩天楼から宇宙ステーションの屋根まで上

がり、一気に飛び降りる。滝つぼに落ちる時は手に水飛沫が噴射されるという演出で、同乗の学生たちと黄色い歓声を上げてきた。

7月はドナルド・キーン展を観に横浜の神奈川近代文学館へ。常設ブースでは鴉外、漱石など文豪たちの筆跡が残る原稿や初版本などを展示。見事な筆跡の三島由紀夫のキーンさんへの書簡には、「盾の会」のお披露目会に出席してくれなかった川端康成への恨み言として、ノーベル賞受賞に関して少々の不満を述べていた。谷崎潤一郎からの手紙には「私はあまり字が上手くないので決して当方からの手紙を公表しないように!」との願いもむなしく展示され、文豪たちの隠れた一面を見ることができた。早く日常を取り戻したいものです。(篠原文恵)

編集後記

隣の公園でのラジオ体操後の散歩で、犬連れ男性の虫かごにカブトムシがいるのに気づきました。「いますよ。カナブンとハチがいますからすぐ判りますよ」。

少年時代。捕虫網がなく、甲虫採集専門だった記憶がよみがえりました。

翌早朝、カナブンが幹に密集しているコナラにカブトムシ1匹を見つけ、ジャンプして払い落としました。指先でつかもうとする全身でもがき、指が滑り、取り落としてしまいました。凄い生命力を感じました。家に持ち帰り、とりあえずマスクの空箱に入れ、虫かごと餌を買ってきました。近所に見せる子どもがいるでなし、友人のところへ見せに行くのも恥ずかしく、翌々日放しました。2泊のショートステイでした。

今でも、必死にもがいた力の感触が指先に残っています。「昔はこんなことはなかった。やはり指の筋力まで衰えているのか」と思うのが最近の悪い癖です。(AY)